

遺族等相談事業
平成 27 年度
事業実績報告書

特定非営利活動法人
ネットワーク医療と人権

<目次>

1. 相談事業	1
1) 事務所相談	1
a. 電話相談	1
b. 事務所面談	2
2) 相談員会議	2
3) 訪問相談	3
2. 相談会事業	4
1) 遺族相談会	4
2) 地方相談会	5
a. 拡大交流会『たんぽぽの会(京都)』	5
b. 地域交流会	5
c. 地方医療等相談会	6
3. 研修会	8
4. 患者・家族調査事業	9
5. 遺族健康相談事業	9
6. 遺族自主的活動相互支援交流会	10
7. 広報事業	10

1. 相談事業

1) 事務所相談

事務所において、遺族および患者・家族等からの電話・面接・メール等による相談を受けた。また、各種相談会や交流会等の企画・運営準備を行なうとともに、遺族健康相談事業に関連する作業（遺族支援ネットワーク構築、遺族健診受診支援）、資料館事業のデータ整備・ホームページ準備等の作業、相談事業全般の管理・運営事務作業等を実施した。

a. 電話相談

毎週月曜日から金曜日まで、相談員等による相談窓口を開設し、遺族および患者・家族等からの電話相談を受けた。

また電話相談時間以外（夜間など）にも相談員が自宅や携帯電話を受ける場合があった。相談内容によって、専門家相談員等への紹介・引き継ぎを行なった。さらに医療機関・自治体等の関係機関への照会などを行なった。

月別実績

実施月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実績日数	21	18	22	22	21	19	21	19	18	17	20	22	240
相談件数	27	22	30	15	30	28	26	14	25	33	25	26	301

地域別

地域	北海道	東北	関東・甲信越	東海	北陸	近畿	中四国	九州	不明	合計
相談件数	3	27	37	18	29	104	27	53	3	301

【主な事項】

(1)遺族関連

- ・ 妻が入院して数年になります。一人暮らしが続いていて侘びしい時もあります。近いので交流会に参加します。皆さんと話したいと思います。
- ・ 転居して5年になります。心臓が悪くなり、救急車で運ばれることも何度もありました。今は薬で落ち着いていますが、遠方に出掛けるのは困難です。

- ・ 心筋梗塞で入院、手術をした。今はリハビリに励んでいます。献花の時期だが、入院中なので退院後に送って欲しい。献花は嬉しいです。
- ・ 会って話しがしたいので来て欲しい。車椅子の生活なので交流会には行くことが出来ない。是非来て欲しい。
- ・ 膝が痛んで歩けなくなった。夜も痛んで眠れない。交流会に参加できなくて残念です。
- ・ 老人施設に入所したが体調があまり良くない。白内障の手術も行った。交流会に参加したかったが見合わせます。
- ・ 精神的にしんどいときがある。専門家相談員のカウンセリングを受けたい。
- ・ 夫が15年来、病気でずっと家で介護している。外出がままならないが頑張ります。
- ・ 健診の案内を頂いていたが今まで受診してこなかった。が、今回受けてみようと思う。宜しく願いします。

<交流会、健診問い合わせ、献花お礼など多数>

(2)患者・家族関連

<生活上の課題、保因者、家族問題など>

- ・ 息子が血友病患者で、姉妹（保因者）の娘が男児を出産。血友病患者の可能性はないか？
- ・ 交際している（結婚を考えている）彼が血友病患者。身体のことや注意すべきことなど、全然話してくれない。自分の親からは結婚に反対されている。
- ・ 交際している彼が血友病患者。結婚を考えているが自分の親や彼の親も結婚に否定的。また彼自身の健康や止血の管理が本当にできているのか疑わしい。

<治療製剤について>

- ・ 化血研問題への問い合わせ。医師から説明を何も聞いていない。
- ・ 弟をエイズ発症で亡くした姉からの相談。息子が血友病 B（中学1年）で血尿が続いていた。主治医から製剤の変更を勧められたが、その時初めて化血研の製剤が出荷停止になっていることを知った。遺伝子組み換え製剤に変更というが、遺伝子組み換え技術に対する不安がある。一方で化血研（HIV訴訟の被告）や情報を伝えてくれない医師に対する不信感もある。
- ・ 母からの相談。半減期延長型製剤を医療者に勧められているが、薬害 HIV 問題を聞いていたことから、定期補充療法に抵抗がある様子。息子自身も製剤を変えるつもりはないらしい。

<公費負担制度、医療体制など>

- ・ 薬害被害者手帳について教えて欲しい。
- ・ 血友病 A 軽症（50代）の夫が首の手術後、死去。術後、製剤投与がなされておらず、医療側の説明も納得できず、止血管理の不手際を疑っている。

<血液凝固異常症、止血管理、関節症>

- ・ 軽症血友病患者からの相談。自己注射の手技を会得していない。自宅に製剤を置いていない。出血エピソードのたびに病院に行かなければならず面倒。虫歯の治療で近隣のクリニックに行くと、血友病を伝えたら「ここでは治療できないので、大病院へ行って欲しい」と言われた。
- ・ 女性 vWD 患者からの相談。股関節の人工関節置換術を勧められているが…。

<その他>

- ・ 児童相談所からの照会。難病の相談を受けており、近々血友病小児（小学5年）の家族からの相談を受けることになっている。患者会や医療機関などについて情報が欲しい。

b. 事務所面談

毎週月曜から金曜まで相談員による相談窓口を設置し、遺族および患者・家族等の面談を行なった。

月別実績

実施月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実績日数	21	18	22	22	21	19	21	19	18	17	20	22	240
件数	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	1	0	3

2) 相談員会議

遺族相談員会議、患者・家族相談員会議を月2回程度開催したほか、遺族等支援サポートネットワ

ーク構築事業や HIV 遺族実態調査検討会に関連する打合せ会議を随時行なった。さらに、資料館ホームページ・データベース作成のための会議や、東西の打合せ会議を実施した。

内容としては、遺族相談会、研修会、訪問相談、地方相談会などの検討・企画立案・課題・事前打合せ等を協議したほか、症例検討などを行なった。

実施月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実施日数	4	5	5	3	4	4	3	6	2	1	5	3	45

3) 訪問相談

遺族・患者・家族などからの要請等によって、相談者の自宅や入院先、最寄りの地域に相談員が訪問し相談を受けた。

必要と思われる相談内容の際には、専門家相談員と共に訪問するなど、継続的な対応（訪問、電話等）を行なった。また遺族相談会や交流会などで専門家相談員や弁護士が個別に相談を受けた。

月別実績

実施月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
実績日数	21	18	22	22	21	19	21	19	18	17	20	22	240
相談件数	8	3	5	9	11	3	3	6	7	7	3	3	68

地域別

地域	北海道	東北	関東・甲信越	東海	北陸	近畿	中四国	九州	合計
件数	0	6	5	0	1	45	11	1	68

【主な事項】

(1)遺族関連

- ・ 車椅子生活になり数年経つ。デーサービスに週2回行っているが、その外は外出ができないのでストレスを感じる時がある。色々話しが出来て嬉しい。
- ・ 3年前から3回も骨折で入院、リハビリをしたが、現在歩行器を使っている。もうどこへも出られなくなった。交流会にも参加できなくなり、遺族のみんなにも会えなくなって淋しい。
- ・ 高齢になって歩くのも大変さがあるが、車の運転だけはしている。夫婦二人だけの生活はしんどいものがある。今はヘルパーさんに支えら何とか生活している。
- ・ 様々な難病を抱えながら生活される困難さを伺った。そんな中でも前向きに生きておられる様子が窺え、互いに励まし合うことができた。

(2)患者・家族関連

<生活上の課題、心理的問題など>

- ・ 約半年もの間、通院されていないと聞き、訪問を実施。母親と息子同席のもと面談を行い、結果的に作業所の面接を受けて結果を待っている。
- ・ 知的障害があり、母親の介助を受けていたが、母親が他界したため現在は一人暮らしとなった。

<合併症など>

- ・ 下肢に細菌感染症を引き起こし、人工関節周辺の炎症が強くなった。鎮静剤の影響で意識はなく、ICUにて治療を受けている。本人と話ができないため、母親の相談を受けている。肝臓の状態が非常に悪く、腎透析も始まったらしい。→12月下旬に他界。
- ・ 肝がんが再発した。再度切除術を行う予定。

<HIV/HCV 重複感染症>

- ・ 新しい抗 HCV 薬（ハーボニー）の治療12週が終了した。検査結果が楽しみである。
- ・ 院外保険薬局にてハーボニーの医療費公費負担が難しいと言われた。→事実確認したところ、処方箋に記載すべき公費負担番号が間違っていたことが判明。再度ミスが起きないように医療機関側に申し入れた。
- ・ 新しい抗 HCV 薬とてんかん薬との相互作用が問題となっており、抗 HCV 薬を始める前に、てんかん薬の変更・用量調整など、面倒なことが必要。しかもてんかん薬を処方しているのが消化器科の医療機関と別な施設であるため、病院間を行き来するのが大変つらい。
- ・ 肝移植候補にエントリーしたが、入院先で抗 HIV 薬を処方できないとのこと。また検査入院が2週

間と聞いたが、会社への休暇申請が通らないだろうと考えている。

<止血管理、血友病性関節症>

- ・ ハイレスポンダーのインヒビター保有患者。過去の頭蓋内出血のためか、企図振戦が起きる。
- ・ 下肢、上肢共に不自由で車椅子での生活をしている。重症血友病ではないことから、定期投与を行なっておらず、自己注射もできない。
- ・ 転倒して骨折。人工関節置換術を行ない、現在リハビリ中。

<家族の問題など>

- ・ 娘が学校を辞めようと考えており、ストレスになっている。
- ・ 東日本大震災と原発事故の影響で、奥さんの実家である北海道に自主避難し、新たな就職先で働いていたが、気候が厳しく東北に戻りたいと考えているが、奥さんとの意見が異なり、結果的に単身で東北に戻り再就職している。北海道との2重生活をしている。

(3)健診訪問

遺族クライアントが健診を受診する際に、相談員が病院へ訪問しクライアントの状況を把握し、健診に対する不安感を取り除くために健診の付き添いを行なっている。月別実績については、後述「5. 遺族健康相談事業」を参照。

2. 相談会事業

1) 遺族相談会

遺族相談会を年2回開催した。これは遺族の交流のために東京と大阪が合同で開催している。参加者は遺族と弁護士と専門家相談員（心理カウンセラー等）で、個別相談は弁護士と専門家相談員が担当している。

遺族相談会では、少人数のグループに分かれて気兼ねなく話し合いができる場を設けている。参加される方に「来て良かった」と思ってもらえるように企画を検討し、交流会当日は参加者への気配りを心がけている。

第1回は、ソプラノ歌手の村上氏を招聘し「コンサート」を開催した。その後グループ交流会を行った。第2回は、はばたき福祉事業団の専門家相談員による講演「非言語コミュニケーション」と題しジェスチャーと手話で思いを伝えることを学んだ。講演後グループ交流会を行った。

遺族相談会については、毎回「是非続けてほしい」という声が多く、また参加者の感想として「仲間に会えてうれしい」「ここだけでしか話せない」「元気になる」など寄せられている。このような場の存在は遺族にとって安心と励ましの場となっている。

第1回

日時：2015年6月7日（日）

場所：福島県福島市 ホテル福島グリーンパレス

参加者：47名（うち遺族26名、相談員10名、専門家7名、弁護士4名）

内容：＜コンサート＞

「歌うことは祈ること」ソプラノ歌手の村上彩子氏によるコンサートを企画した。語りを変えてのコンサートで、ご自身の苦労された体験や、血友病の弟さんへの思いなど語られ、私たち薬害被害者の心にも寄り添ったものだった。素晴らしい歌声と温かい語り、参加された皆さんが癒され、感動を頂いたコンサートであった。

◇特記事項：5 グループに分れてグループ交流会を行った。今回、父親、母親、兄弟のみのグループを作り好評だった。グループの報告を弁護士、専門家にして頂き、各グループが有意義な語り合いが出来た様子が窺えた。初参加の方が4名。

第2回

日時：2015年10月18日（日）

場所：大阪府大阪市 大阪コロナホテル

参加者：33名（うち遺族13名、相談員10名、専門家7名、弁護士3名、）

内容：＜講演＞

「非言語コミュニケーション」～身体で伝えるありがとう。思いはどこまで伝わるか～

- 講師：はばたき福祉事業団専門家相談員 小松賢亮氏、石射いずみ氏
- ◇ジェスチャーや手話によって感情や意志を伝える体験を皆で共有した。
 - ・ グループに分かれ、ジェスチャークイズを行い、正解を競い合って盛り上がった。
 - ・ 日常会話の手話を学び、二人一組になって会話に挑戦。また「手のひらを太陽に」を全員で手話を交えて歌い、心がひとつになり、温かい気持ちになった。
 - ◇特記事項：今回の講演は、全員参加型で参加者に一体感が生まれました。
 - 4 グループに分かれてのグループ交流会では、各グループが講演の感想や体験を語り合い共有し有意義なものとなりました。

2) 地方相談会

遠方で開催の遺族相談会に参加できない遺族を対象に、各地域での交流会を実施した。今年度は、患者の治療に必要な最新情報等を専門家の講演等を通じて学んでもらう機会、また心身の悩みを相談できる場を提供することを目的に地方ごとに相談会を開催した。

また、昨年度に引き続き大阪側の遺族を対象とした拡大交流会を実施し、交流会の充実を図っているところである。

a. 拡大交流会『たんぼぼの会(京都)』

日 時：2015年12月6日(日)

場 所：京都市 アピカルイン京都

参加者：39名(うち遺族17名、相談員8名、専門家11名、弁護士2名、講師1名)

内 容：<講演>

和解20周年を迎えて

「遺族弔慰事業の成り立ちと変遷—遺族と共に歩んだ20年」

講師：大阪原告団 代表 花井 十伍氏

- ◇スライドを通して訴訟開始から和解までの経緯、相談事業、薬害根絶誓いの碑についてなど、当時を振り返りつつ、代表としての視点で分かりやすく語って頂いた。

<グループ交流>

4 グループに分かれ、各グループが講演を受けて和解当時のこと、差別、偏見の中で病気と向き合い大変だったことなど語り合った。当時のことを思い出し辛くなった方もいたが、互いの気持ちを共有でき、今後の一歩であると感じてもらえと事は良かった。

- ◇特記事項：和解20周年を迎えるという節目の時に、タイムリーな講演であったと好評を得られた。初参加者の方が3名。

b. 地域交流会

第1回

日 時：2015年7月12日(日)

場 所：栃木県宇都宮市 栃木ホテルニューイタヤ

参加者：6名(うち遺族3名、相談員3名)

内 容：関東・東北地域交流会

- ・ 自己紹介、近況から始まり介護のことから老人施設についてなど、高齢者共通の話題に終始した。一人暮らしの不安も語られ、お互い励まし合った。
- ・ 初めて参加された方がおられた。初対面にも関わらず、すぐに打ち解け同じ遺族という共通の話題も多く話しが盛り上がった。

第2回

日 時：2015年9月6日(日)

場 所：岐阜県下呂市 白樺ホテル

参加者：4名(うち遺族1名、相談員3名)

内 容：東海・北信越地域交流会

- ・ 直前になって5名の方が体調不調や都合が悪くなり、欠席となり残念だった。
- ・ 人数が少ない分、多岐にわたり十分に語り合うことができた。主に老後の不安や健康のこと施設の事など情報交換が出来た。

第3回

日時：2016年2月14日(日)

場所：佐賀

参加者：8名（うち遺族5名、相談員3名）

内容：九州・沖縄地域交流会

- ・ご夫婦2組の参加があり、1名の方は、十数年ぶりに参加された。
- ・血友病にまつわる話しなどが話題に上り、友の会の話しや保因者のことなどが話された。
- ・健康、介護の事など現実に老後を迎えよう過ごしたら良いのか、情報交換の場ともなった。

第4回

日時：3月13日(日)

場所：徳島

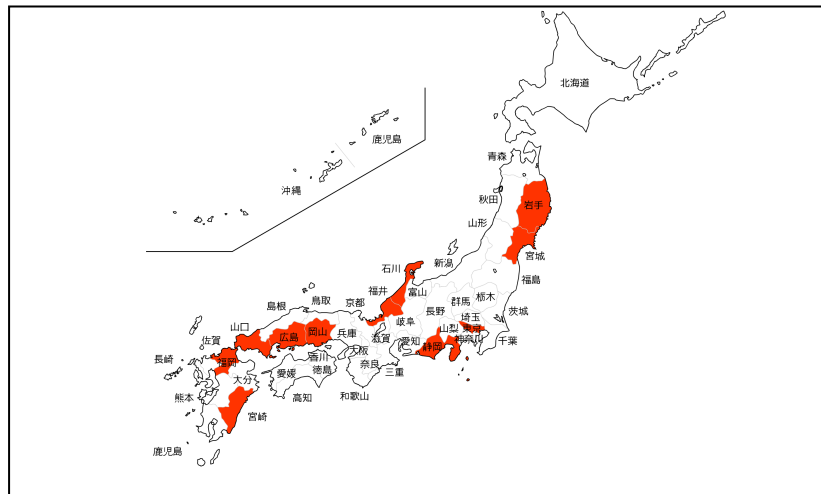
参加者：16名（うち遺族9名、相談員7名）

内容：近畿・中・四国地域交流会

- ・久しぶりに参加された方、初めて出会う方達も親しく声を掛け合い、始めからアットホームな雰囲気の中での開催となった。
- ・最近まで病気療養されていた方も数名おられ、参加できた喜びを語られた。病気、健康の話を中心に様々な話題に有意義な会話が交わられた場となった。

c. 地方医療等相談会

2015年度は、下記の通り11都県11回開催した。



第1回

日時：2015年4月4日(土) 14:00~17:00

場所：石川県金沢市 石川県立中央病院 本館2階 第2会議室

参加者：患者・家族12名、相談員3名

内容：北陸ブロック（金沢）医療等相談会

講師：広島大学病院 輸血部 齊藤 誠司氏

「血友病の最新治療について」

第2回

日時：2015年6月20日(土) 13:30~15:30

場所：静岡県静岡市 静岡県総合研修所もくせい会館 和室

参加者：患者・家族21名、相談員2名

内容：東海ブロック（静岡）医療等相談会

講師：医療法人財団 荻窪病院 カウンセラー 小島 賢一氏

「血友病であることを周囲にどう伝えるか」

第3回

日 時：2015年6月21日(日) 13:00~15:30
場 所：岩手県盛岡市、ふれあいランドいわて 研修室1・2
参加者：患者・家族20名、相談員2名
内 容：東北ブロック(岩手)医療等相談会
講 師：盛岡赤十字病院 小児科 高野 長邦 氏
「もしもの時に備えよう！-様々な補充療法の意味と自分の特性を知る-」
兵庫医科大学病院 血液内科 徳川 多津子 氏
「患者会の活動意義と果たすべき役割」

第4回

日 時：2015年7月4日(土) 14:00~17:00
場 所：福井県福井市 AOSSA 6F 研修室 607号
参加者：患者・家族13名、相談員2名、医療者7名、ボランティア4名
内 容：北陸ブロック(福井)医療等相談会
講 師：福井大学医学部医学科 感染症膠原病内科 田居 克規 氏
「福井大学病院における HIV 診療でのトピックス」
国立病院機構 大阪医療センター 感染症内科 矢嶋 敬史郎 氏
「HIV 感染者に見られる併発症について」

第5回

日 時：2015年10月25日(日) 14:00~17:00
場 所：岡山県岡山市 岡山コンベンションセンター(ママカリフォーラム)4F 404号
参加者：患者・家族5名、相談員1名、専門家相談員1名
内 容：中国・四国ブロック(岡山)医療等相談会
講 師：兵庫医科大学病院 血液内科 日笠 聡 氏
「長時間作用型(半減期延長型)製剤と C 型肝炎の最新治療の動向」

第6回

日 時：2015年11月3日(火・祝) 14:00~16:30
場 所：宮城県仙台市 仙台市福祉プラザ 11F 第1研修室
参加者：患者・家族28名、相談員1名
内 容：東北ブロック(仙台)医療等相談会
講 師：聖マリアンナ医科大学 小児科 長江 千愛 氏
「新たな血友病治療製剤の課題」

第7回

日 時：2015年11月22日(日) 13:00~17:00
場 所：福岡県博多市 JR シティー会議室 10階 小会議室 I
参加者：患者・家族2名、相談員2名
内 容：九州ブロック(博多)医療等相談会
講 師：国立病院機構 九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター
心理療法室長 辻 麻理子 氏(臨床心理士)
「明日の、そして未来の安心と健康を生むために
-カウンセリングを知って、使いこなしてみよう！-」
国立病院機構 九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター
ソーシャルワーカー 首藤 美奈子 氏
「いまさら聞けない制度の話、今から聞きたい制度の話
-医療福祉相談員が何でもお答えいたします-」

第8回

日 時：2015年11月29日(日) 14:00~15:30

場 所：山口県小野田市 山口労災病院 図書棟 2 階講堂
参加者：患者・家族 22 名、相談員 2 名、医療者 1 名
内 容：中国・四国ブロック（山口）医療等相談会
講 師：兵庫医科大学病院 血液内科 日笠 聡 氏
「長時間作用型(半減期延長型)製剤の現状」

第 9 回

日 時：2016 年 1 月 23 日（土）13：30～15：00
場 所：東京都新宿区 新宿オークタワー会議室 Room1
参加者：患者・家族 46 名、相談員 2 名
内 容：関東・甲信越ブロック（東京）医療等相談会
講 師：東京医科大学 血液凝固異常症遺伝子研究寄付講座 講師 篠沢 圭子 氏
「血友病とともに生きる女性
-遺伝、保因者、診断・健診、皆さんに知ってほしい大切なこと-」

第 10 回

日 時：2016 年 2 月 6 日（土）13：00～15：00
場 所：広島大学病院 臨床管理棟 2F 会議室 1・2
参加者：患者・家族 16 名、医療者 3 名、相談員 2 名
内 容：中四国ブロック（広島）医療等相談会
講 師：奈良県立医科大学 小児科 嶋 緑倫 氏

第 11 回

日 時：2016 年 2 月 28 日（日）13：30～15：00
場 所：宮崎市、KITEN ビルコンベンションホール 8 階会議室
参加者：患者・家族 12 名、相談員 2 名
内 容：九州ブロック（宮崎）医療等相談会
講 師：荻窪病院 血液内科 長尾 梓 氏

3. 研修会

相談員（遺族担当、患者・家族担当）の知識のアップデートや、資質の向上を図るため研修会を開催した。今年度の遺族研修会では「日々についてのおたずね」実施を踏まえて研修を行なった。相談員全体研修では、「ピアカウンセリング」をテーマに更にレベルアップをめざし、またカウンセリングの基本を再確認しながらの研修会を行った。

その他、日本エイズ学会に参加し最新情報を収集することに努めた。

第 1 回 患者家族担当相談員研修

日 時：2015 年 7 月 12 日（日）13：00～16：30
場 所：MERS 801 会議室
内 容：講師 国立病院機構 大阪医療センター 消化器内科 科長 三田 英治 氏
「HIV/HCV 重複感染症治療の最新動向
-治療薬・治療方法の今後、肝移植研究班の結果など-」
講師 一般社団法人 大阪府訪問看護ステーション協会 会長 榮木 教子 氏
「在宅医療・看護・介護における現状と課題」

第 2 回 遺族担当相談員研修

日 時：2015 年 7 月 26 日（日）13：00～16：30
場 所：ホテル新大阪 会議室 406 号
内 容：講師 専門家相談員(西川、古谷野、紅林、鈴木、矢永、森)
「ピアカウンセリングがもたらすもの」(おたずねを通して)

第 3 回 相談員全体研修

日 時：2016 年 1 月 31 日（日）13：00～16：40

場 所：MERS 801 会議室
内 容：講師 鈴木 葉子 氏 ほか 専門家相談員

○他団体主催研修会等への参加

第 29 回日本エイズ学会学術集会・総会
日 時：2015 年 11 月 30 日～12 月 1 日
場 所：東京ドームホテル
参加者：相談員 5 名

4. 患者・家族調査事業

大阪大学保健看護学科(委員長：伊藤美樹子)でアンケート結果を入力し、集計作業を各研究者が分析を開始した。最終報告書(原本)を年度内に作成するため、各研究者からの分析結果と論考を委員会全体会において議論した。また各論考や本調査に寄せる思いを各相談員に執筆して最終報告書に掲載することとなった。

<研究者ワーキング>

研究者および相談員により、各研究者の論考内容・分析結果を検討するワーキング会議を行なった。

第 1 回 研究者ワーキング会議
日 時：8 月 4 日 (火) 16:00～19:00
場 所：MERS 801 会議室
参加者：研究者 8 名、相談員 3 名

第 2 回 研究者ワーキング会議
日 時：10 月 2 日 (金) 16:00～21:00
場 所：MERS 801 会議室
参加者：研究者 8 名、相談員 3 名

第 3 回 研究者ワーキング会議
日 時：10 月 26 日 (月) 16:00～20:00
場 所：MERS 801 会議室
参加者：研究者 7 名、相談員 3 名

第 4 回 研究者ワーキング会議
日 時：2016 年 2 月 5 日 (金) 18:00～21:10
場 所：MERS 801 会議室
参加者：研究者 9 名、相談員 3 名

<全体研究委員会>

第 1 回調査研究委員会(全体会)
日 時：11 月 15 日 (日) 14:30～18:00
場 所：ホテル新大阪 会議室 801 号
参加者：研究者 8 名、相談員 11 名

第 2 回調査研究委員会(全体会)
日 時：2016 年 2 月 14 日 (日) 13:00～17:00
場 所：MERS 801 会議室
参加：研究者 9 名、相談員 8 名者

5. 遺族健康相談事業

遺族健康相談事業としては、国立病院機構大阪医療センターに健康相談窓口として毎週火曜・金曜日に設置しているほか、昨年度に引き続き遺族健診事業を実施した。今年度は健診メニューの中に乳がん検査を追加して実施した。

1) HIV 遺族健診事業

受診先：国立病院機構大阪医療センター

健診内容：

問診、血液検査・視力・便・尿検査、胸部X線、心電図、検便、心理検査、医師からの結果フィードバック・コンサルテーション、婦人科検診（内診、エコー、子宮頸部細胞診）、乳がん検査（エコーもしくは、マンモグラフィ）、診断書発行

受診者数：計 27 名

実施月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
受診者数	4	2	2	0	0	4	4	4	4	0	1	2	27
健診訪問	3	2	0	0	0	4	3	4	2	0	1	1	20

2) 遺族健康相談窓口 火曜・金曜日に設置

6. 遺族自主的活動相互支援交流会

第1回<近畿地域交流会（老後を考える会）>

日時：2015年5月24日(日)

場所：大阪市 ホテル新大阪

参加人数：12名

第2回<東日本大震災の被災地を尋ねて（勉強会）>

日時：2015年6月6日(日)

場所：福島県伊達郡川俣町山木屋

参加人数：19名

第3回<コンサート“命の歌を響かせて”>

日時：2015年12月7日(月)

場所：京都市 アピカルイン京都

参加人数：27名

第4回<関東地域交流会>

日時：2016年3月26日(土)

場所：東京都 TKP 東京駅前カンファレンスセンター

参加人数：18名

◎<日々の生活状況・問題点についてのおたずね（聞き取り調査）>

電話による聞き取り調査を101件実施

7. 広報事業

- ・ ニュース等通信の発行（年7回発行）
- ・ “たんぼぼ通信（遺族）”の発行（年5回）
- ・ 「『日々についてのおたずね』をふりかえって（2014年度）」の発行
- ・ 「ヘモフィリア患者のライフスキル調査報告書【速報版】」の発行
- ・ 遺族相談会等の案内、相談事業報告などの発送
- ・ 各相談会・交流会等の開催案内の送付（地域別、全国版）
- ・ 研修案内等の発送
- ・ 遺族計113名に対して献花を命日の前日に届けている。
- ・ 資料館ライブラリ整備にあたり、映像・書籍・記事等の目録を作成した。

以上